



第 93 号

発行人
(一財) 福井県剣道連盟
会長 片山外一

事務局
〒910-0015 福井市二の宮2丁目24-18
サンライズ二の宮 1-B
TEL・FAX (0776)28-6616
メール fkiendo@herb.ocn.ne.jp



ご挨拶

一般財団法人福井県剣道連盟

会長 片山外一

新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

「福井しあわせ元気国体」まであと残り一年九か月となりました。本年は、まさに選手強化の正念場の年であり、大会の開催・運営についても準備を本格的に進める必要があります。

昨年の岩手国体では、十四年ぶりに本国体出場を果たした少年女子が一回戦で強豪の熊本県と対戦し、先鋒、次鋒で二勝し、最後は大将戦まで纏れる互角の戦いでしたが、惜しくも一歩及

ばず敗れました。成年男子は福井の翌年の国体開催県である茨城県と対戦し、善戦したもののこちらも一回戦敗退となりました。また、成年女子は北信越国体で二位、少年男子は同じく五位と、いずれもブロック予選を勝ち上がることができませんでした。なお、開催県の岩手県は、成年男女と少年女子が一位、少年男子が三位で総合優勝、次期開催県の愛媛県は、少年女子が二位、成年女子が四位に入賞しています。

本県としても、スーパーアドバイザーの佐藤成明先生、成年強化コーチの高橋俊昭先生、少年強化コーチの神崎浩先生のご指導のもと、接戦を勝ちきる技術力と精神力の強化をさらに進め、今年の愛媛国体での入賞、来年の福井国体での剣道総合優勝を目指し、選手、指導者、本連盟の関係者が一丸となって取り組んでまいります。

また、昨年八月に開催された全国教職員剣道大会では、本県の林田匡平選手が個人戦（高・大・教委の部）で見事準優勝を果たされました。今後もより一層の精進を重ねられ、実力を発揮されることを期待いたします。

国体の開催・運営については、昨年の五月に「福井しあわせ元気国体」実行委員会を組織し、北野担当副会長、河越実行委員長、岡田事務局長のもと、競技部二十一名、総務部十七名の各担当責任者を選任するとともに、十月の岩手国体では運営状況の

調査・視察を行いました。今年度は、福井国体のプレ大会として位置付ける六月の北信越高校総体において、各担当の業務内容を具体的に検証し、来年の福井国体本番に向け、万全の体制で臨みたいと考えています。

今後、少年、中学、高校、一般それぞれの選手の競技力向上と、本県における剣道の普及発展のため、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、今年一年の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。そして、新年の挨拶といたします。



大会報告行事報告

第55回全日本女子剣道選手権大会

平成二十八年九月十一日(日)

於 長野県ホワイトリング
今回、2年ぶり9回目の出場となつた全日本。今年から長野県のホワイトリングで開催するという事で、いつもとは違う雰囲気会場に入らせて頂きました。

福井国体まで後2年と迫り、強化練習や県外遠征が増え、充実した稽古が出来ている中での全日本でした。
『勝たなければならぬ！』『勝ちたい!!』という気持ちがいっつもより一層強く感じていました。

一回戦の相手は岩手県の岡崎選手。今年の岩手国体の先鋒で法政大学の学生ということもあり、稽古充分で勢いが感じられました。

そして、上段ということもあり、慌てず相手の様子を見ながら自分の得意な技を出していこうと考えていました。

しかし、『はじめ！』の合図で立ち上がり3秒もたたない間に、相手に片手面を打ち込まれました。思っていたタイミングとは違い、上手くかわせず、面を打たれ一本。

その後試合時間が5分近くもあるにもかかわらず、気持ちが焦り、何

本か惜しい技が出ていたのですが決めきれず、試合終了となってしまいました。

今回、全日本に出場させて頂き、自分の心の弱さに改めて気付かされました。いくら稽古量が増え、スピード、パワーをつけたからとはいえ、常に平常心を保てる精神力の強さがなければ、自分の最高のパフォーマンスはできないのだなと実感させられました。

これからの稽古では、技や体力を鍛えるだけではなく、どんな時でも冷静に自分の剣道ができるよう、精神的にも鍛えていきたいと思っております。

これからも御指導、御鞭撻のほどよろしく申し上げます。

山田 聖子

第11回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

平成二十八年九月十八日(日)

於 大阪府府民共済スパーアリーナ

(舞洲アリーナ)

(小学生の部)

去る本年九月二十日(日)大阪府府民共済スパーアリーナ(舞洲アリーナ)において、第11回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会が開催され、本県から「小学生の部」が出

場した。

小学生の部では、本年七月十八日(祝日・月)福井県立武道館多様目において、第三次福井県選抜選手選考会を開催し、第一位、崎元蓮太(福井養正館)、第二位、山本峻仁(王子保スポ少)、第三位、森陽輝(鯖江スポ少)、第四位、柏崎雅己(鯖江志士樹館道場)、第五位、城田海響(鯖江スポ少)選手が本県代表として出場した。

本年度は、全国レベルの試合経験者も少なく、各選手の技能力の向上及び精神面の強化を図るとともに、他県選抜チームとの合宿、錬成会及び各大会に出場し、チームワークで勝利を掴む大切さを目標に掲げ、鯖江志士樹館道場及び福井養正館の各練習会場をお借りし、同道場の選手と共に稽古に励み、約三十回の稽古会を重ねた。また、前年度選抜選手等が稽古会会場に駆けつけ、一緒に稽古し、また、大会に向けての心構え等についてアドバイスするなど、選抜選手に対して花を添える場面もあった。

選手、指導者及び保護者が一丸となって、相互に励まし合い、一所懸命に稽古に励み、本大会に臨みましたが、決勝リーグには進めませんでした。

試合内容について、強豪の高知県

と対戦した後、コート主任の緒方勝昭先生(京都府、八段)から、「試合には負けたかもしれないが、すばらしい試合だった。良く頑張った。」と、お言葉をいただきました。また、秋田県との対戦では、全敗でした。最後に、堤腰一昭先生、塚田直人先生を始め、選手を支えていただいた関係者の皆様方のご尽力に対して、深く感謝の意を表します。



試合結果については、次のとおりです。(文責 船田久三郎)

予選リーグ

高知県 1 | 0 福井県

先鋒	川田	×	森
次鋒	中原	×	城田
中堅	寺村	×	山本
副将	横山	×	柏崎
大将	竹内	⊗	一本勝 崎元

第64回福井県剣道大会

秋田県	5	—	0	福井県
先鋒 高島	⊗	⊙	—	森
次鋒 三浦	⊗	⊙	—	城田
中堅 淡路	⊗	—	—	一本勝 山本
副将 熊谷	⊗	⊗	—	柏崎
大将 東海林	⊗	—	—	一本勝 崎元

一般男女の部
平成二十八年九月二十二日(木・祝)
於 トリムパークかなづ
中学生の部

平成二十八年九月二十四日(土)
於 福井県立武道館

「第六十四回福井県剣道大会」は、九月二十二日に一般男女の部がトリムパークかなづ、九月二十四日に中学生の部が、県立武道館において開催されました。

一般男女の部には、男子29チーム、女子17チーム 計196名が参加、中学生の部には、男子55チーム、女子21チーム 計380名が参加し、熱戦を繰り広げました。

また、二十二日の開会式では、岩崎貞夫前会長への全剣連感謝状の伝達授与および福井県剣道連盟の発展に功績のあった五名の個人に対する功労賞、全国大会・ブロック大会において優秀な成績を収めた選手に対

する優秀選手賞の表彰が行われました。

【全日本剣道連盟感謝状】

岩崎 貞夫

【功労賞】

中村 秀男 (敦賀市剣道連盟)
田口五十二 (鯖江市剣道連盟)
梅野 秀一 (丹生地区剣道連盟)
小角 謙 (南条地区剣道連盟)
岡田 要 (坂井地区剣道連盟)

【優秀選手賞】

(第五十八回全国教職員剣道大会)
高・大・教委の部 準優勝
林田 匡平

(第三十七回北信越国民体育大会)
成年女子の部 準優勝
森 宜子

山田 聖子
伊藤 藍子

(第五十八回北信越学生優勝大会)
女子団体の部 準優勝
河野 真由

吉野 茉希
木村 優希
久島 早紀
飯塚 麻貴
清水 綾乃

迎田 真由

試合結果

○中学校男子の部
優 勝 三方中学校Aチーム(若狭町)
第二位 武生第六中学校Aチーム(越前市)
第三位 鯖江中学校Aチーム(鯖江市)
○中学校女子の部
優 勝 武生第六中・南越中合同チーム
(越前市)

第二位 気比中学校Aチーム(敦賀市)
第三位 中央中学校Aチーム(鯖江市)



○一般男子の部
優 勝 福井刑務所A
第二位 鯖江市剣道連盟A
第三位 福井県警察本部機動隊
○一般女子の部
優 勝 福井県学校剣道連盟

第二位 福井地区剣道連盟A
第三位 福井工業大学A

居合道中央講習会の伝達講習会開催

平成二十八年九月二十五日(日)
於 越前市武道館剣道場
第四十三回居合道中央講習会が、九月三〜四日に京都市で開催され、当連盟から玉村七段と大嶋五段が受講しました。

その伝達講習会が開催され、十四名が参加しました。午前九時から開会式があり、今回の狙いとして習った事を伝えるだけでなく全体のレベルアップを図りたいと云う事です。大嶋五段が演武し、玉村七段が技のポイント・体の使い方や構えなどを解説した後、受講者が二名づつコンビになり交互に演武をし、解説のように出来ていたか相互チェックしました。午前中に五本目まで、午後三時まで十二本目まで実技講習が終わり、最後に半数づつ十二本通しておさらいの演武をし、三時半に終了しました。



第71回国民体育大会 希望郷いわて国体

平成二十八年十月八日～十日
於岩手県二戸市総合スポーツセンター
十月八日(土)～十日(月)に岩手県二戸市総合スポーツセンターにおいて、第71回国民体育大会 希望郷いわて国体剣道競技が開催されました。本県から出場した少年女子、成年男子チームの試合結果は次のとおりです。

○少年女子 一回戦

福井県2 / 2	4 / 3	熊本県
先鋒 中山 ド	—	相馬
次鋒 堤腰 メ	—	川崎
中堅 鈴木	—	上田
副将 八幡	—	堺
大将 山崎	—	桑野

○成年男子 一回戦

福井県2 / 1	5 / 3	茨城県
先鋒 林田 メ	—	山下
次鋒 金子	—	海老原
中堅 畑	—	小磯
副将 中村	—	有田
大将 惣次	—	西野

強豪の熊本県との対戦が決まり、選手たちの気持ちで試合をする前に折れてしまわないか心配しましたが、

他県よりも多くの強化を行ったという経験を自信とし、気負うことなく試合を展開することができました。

先鋒中山(美方高)、次鋒堤腰(敦賀高)が粘り強い試合を展開し延長に持ち込み相手の出てくるところを絶妙な技で先取しました。中堅鈴木(敦賀高)が延長に持ち込み、あと一本取れば勝利するところまで相手を追い詰めたものの敗退。その後、熊本が地力を発揮し副将八幡(福井高)、大将山崎(北陸高)が敗退し逆転を許しました。

敗退はしたものの、全国でも対等に渡り合うことができるという自信を得たことは福井国体に向け大きな収穫を得ることができました。また、次鋒の堤腰(敦賀高)、補欠の池田(敦賀高)の二人のジュニアアスリートがこの舞台で戦えたことは来年以降に大きな弾みをつけてくれると思います。

最後になりましたが、多くの先生方に応援に駆けつけていただき、大声援の中試合をさせていただきました。地元岩手県の次に盛り上がりつつあったのは福井県だったと思います。本当にありがとうございます。

(記) 少年女子監督 岩谷治彦

成年男子は、今年は早い段階から強化を図り、大阪府警や兵庫県警等

の県外遠征を始め毎週一回は県内強化訓練をするなど、例年になく強化訓練を実施し、被災地である国体開催地岩手県二戸市に入った。

一回戦、三年後に国体開催が予定されている茨城県と対戦した。先鋒の林田選手(教員)は、大会直前に全日本強化訓練中に右足首を負傷し、松葉杖を使用しないと歩けない状況ではあったが、万全の状態ではないにも関わらず、筑波大学同級生との対戦で、気迫ある試合内容でみごと二本勝ちを収め、福井に勢いをつけた。

次鋒の金子選手(県警)は、先鋒の流れをそのまま継いでいくかと思われたが、試合内容が慎重になってしまい、逆に勢いに呑み込まれてしまい二本負けを喫した。

中堅の畑選手(福井テレビジョン)は試合巧者であるが、これもいつもの通りの粘りの剣風ではなく、内容が空白になり負けてしまった。

副将の中村選手(教員)は国体初出場であり硬さが見られたが、中村選手が出す技を相手の選手に返えされてしまい負けてしまった。この時点で本県の負けが決定した。

大将の惣次選手(県警)は果敢に攻めて打突するが、チームの勝敗が決定したため相手選手は技を仕掛けて来ない。結局時間切れで引き分け

となった。

本年度は福井国体実行委員会の視察員や、少年女子選手等、例年になく多くの応援団の応援を受け、その期待に応えることはできなかったが、選手はそれぞれ本県代表選手として良く頑張ってくれた。

今回この悔しさを、経験をバネに、来年こそは入賞を目指し捲土重来、しっかりと稽古を積んで結果を残したい。(記) 総監督 堀江範雄



第11回福井県中学校 秋季新人大会剣道競技

平成二十八年十月二十二日(土)

於 敦賀市中郷体育館

(男子団体戦)

予選Aリーグ		
鯖江中	3 - 2	明倫中
三方中	4 - 1	丸岡中



明倫中	3-1	丸岡中
鯖江中	1-1	三方中
明倫中	2-2	三方中
鯖江中	3-0	丸岡中
一位 鯖江中	二位	明倫中
三位 三方中	四位	丸岡中
予選Bリーグ		
武生六中	4-0	小浜二中
明道中	2-1	中央中
明道中	2-0	小浜二中
中央中	1-0	武生六中
中央中	5-0	小浜二中
明道中	1-1	武生六中
一位 明道中	二位	中央中
三位 武生六中	四位	小浜二中
決勝トーナメント		
準決勝 明倫中	4-1	明道中
鯖江中	3-1	中央中
決勝 明倫中	2-1	鯖江中
優勝 明倫中	二位	鯖江中
三位 明道中	三位	中央中



明倫中	3-1	丸岡中
明倫中	1-1	中央中
丸岡中	1-1	武生二中
明倫中	2-0	武生二中
中央中	2-2	丸岡中
一位 明倫中	二位	中央中
三位 丸岡中	四位	武生二中
予選Aリーグ		
松岡中	2-1	気比中
今庄中	2-0	小浜二中
今庄中	2-2	松岡中
気比中	3-0	小浜二中
松岡中	1-1	小浜二中
今庄中	2-1	気比中
一位 今庄中	二位	松岡中
三位 気比中	四位	小浜二中
決勝トーナメント		
準決勝 明倫中	2-0	松岡中
今庄中	2-2	中央中



明倫中	2-0	武生二中
明倫中	3-1	丸岡中
丸岡中	1-1	武生二中
明倫中	1-1	中央中
中央中	2-0	武生二中
一位 明倫中	二位	丸岡中
三位 丸岡中	四位	武生二中
予選Bリーグ		
中央中	2-0	武生二中
明倫中	3-1	丸岡中
明倫中	1-1	武生二中
丸岡中	1-1	中央中
明倫中	2-0	武生二中
中央中	2-2	丸岡中
一位 明倫中	二位	中央中
三位 丸岡中	四位	武生二中
予選Aリーグ		
松岡中	2-1	気比中
今庄中	2-0	小浜二中
今庄中	2-2	松岡中
気比中	3-0	小浜二中
松岡中	1-1	小浜二中
今庄中	2-1	気比中
一位 今庄中	二位	松岡中
三位 気比中	四位	小浜二中
決勝トーナメント		
準決勝 明倫中	2-0	松岡中
今庄中	2-2	中央中



明倫中	3-1	丸岡中
明倫中	1-1	中央中
丸岡中	1-1	武生二中
明倫中	2-0	武生二中
中央中	2-2	丸岡中
一位 明倫中	二位	中央中
三位 丸岡中	四位	武生二中
予選Aリーグ		
松岡中	2-1	気比中
今庄中	2-0	小浜二中
今庄中	2-2	松岡中
気比中	3-0	小浜二中
松岡中	1-1	小浜二中
今庄中	2-1	気比中
一位 今庄中	二位	松岡中
三位 気比中	四位	小浜二中
決勝トーナメント		
準決勝 明倫中	2-0	松岡中
今庄中	2-2	中央中

二位 大矢ひかる(気比中)
三位 藤原日菜乃(今庄中)

**全国健康福祉祭
ながさき大会 剣道交流大会**

平成二十八年十月十五日(土)

～十八日(火)

於長崎県五島市中央公園市民体育館
平成二十八年十月十五日から同月十八日(土)までの四日間、長崎県五島市中央公園市民体育館において、ねんりんピック剣道交流大会が開催された。

本県の選抜選手として、監督兼大將 中川満（七十四歳）、副将 四ツ木善一（六十九歳）、中堅 松井喜代治（六十六歳）、次鋒 尾形言成（六十五歳）、先鋒 船田久三郎（六十二歳）の五名が出場した。

福井県選手団一行は、開会式前日（十四日）早朝に福井県を出発し、長崎県到着後、剣道及び俳句の選手一行は、路面電車に乗り換え、更に、長崎港からジェットフォイルに乗船し、夕方午後五時三十五分、五島列島福江港に到着した。

開会式当日（十五日）、歓迎レセプションの観光ミニツアーに参加し、長崎県指定有形文化財、五島最古の洋風建造物の天主堂「堂崎教会」、全山が芝生におおわれた美しい白状の火山（317メートル）「鬼丘」、 「五島観光歴史資料館」及び「多郎島公園」等を見学した。

同日、午後五時から五島市福江文化会館において、合同開始式が開催され、歓迎アトラクション「五島神楽」の舞が披露された。その後、五島市長野口市太郎氏より歓迎の挨拶があった。

なお、式典の席上、特別表彰が行われ、選手最高齢として、男子の部、秋田県大將 今巧夫氏（九十一歳）及び女子の部、高知県先鋒 梅原澄恵氏（六十五歳）が表彰された。

また、試合当日（十六日）、予選リーグが行われ、福井県は、京都市及び長崎県Aと剣道交流を図った。試合結果については、次のとおりです。

福井県	1	1	2	京都市
先鋒 船田	×	×	宗進	
次鋒 尾形	×	メ	コ 迫	
中堅 松井	×	×	音川	
副将 四ツ木	×	コ	岡部	
大將 中川	ド	一本勝ち	三角	
福井県	0	1	4	長崎県A
先鋒 船田	×	×	平井	
次鋒 尾形	×	×	井上	
中堅 松井	×	×	メメ野田	
副将 四ツ木	×	×	メメ梅本	
大將 中川	×	×	メコ後藤	



第51回全日本居合道大会

平成二十八年十月二十二日(土)

於 東京武道館

全日本居合道大会は各都道府県から居合道の五段、六段、七段の三名が出場して、各段別のトーナメント方式の試合を行い、どこまで勝ち進んだかによりポイントが計算され、三名のポイントの合計で各都道府県の順位が決められるという居合道では最高峰の大会です。

今年は今回の大会に向けて毎週月・

日曜日の稽古や伝達講習会に加えて、特別に長野県横山教士七段による講習会及び、岐阜県古橋教士八段による講習会を開催してレベルアップを図り、今年こそは初戦突破を目指し大会に臨みました。大会の結果は五段の部、六段の部は初戦敗退、七段の部は一回戦不戦勝で二回戦に進みましたが二回戦敗退という残念な結果に終わりました。内容的には各段とも気迫のこもった立派な試合内容でしたが、正確性や姿勢などの僅かな差で勝敗が決まったと思います。各段の一回戦の出場者を拝見すると、決して本県選手が見劣りするとは感じられず、全国との差は確実に縮まっていると感じられます。これから更なる稽古を重ねると共に各種大会にも積極的に参加し経験を増やしてい

く大切さを強く感じられる大会でした。

- 五段の部
西出 和男(五段) (越前市)○
三船 陽一郎 (岡山県) 3
- 六段の部
松本 敏夫(五段) (越前市)○
齋藤 健一 (茨城県) 3
- 七段の部
玉村 伸治(七段) (越前市)○
和泉 修二 (福岡県) 3

報告者監督大嶋雅典(五段) (越前市)



第15回宮本武蔵顕彰お通杯 女子剣道大会に出場して

平成二十八年十月二十三日(日)

於 宮本武蔵顕彰武蔵武道館
今回二度目のお通杯に、前回出場メンバーと今回も一緒に出場させていただきました。私にとって今回の

大会出場は学び多いものとなりました。

今回の試合結果としてAチームが四回戦敗退、Bチームは一人欠場といったハンデを負いながら試合に挑みましたが、力及ばず初戦敗退という結果となりました。

今大会優勝団体チームは前年度優勝の岡山県活人会でした。昨年よりもどこのチームも更に強く、見ていられるだけでも圧倒されてしまう部分も多かったです。

また選手人数も多く、前回の大会出場は初めてのこともあり、何がどうなっているのかわからず、あつという間に終わってしまったというのが正直な気持ちでした。しかし今回は二度目ということもあり、その緊張感も少し楽しく感じて試合に臨むことができました。個人の結果・団体の結果とともに、納得のいく結果ではありませんでした。自分の中の課題を見つけることができましたと思います。

他県の団体チームの試合を見させていただき、気迫や打ちきる姿勢、残心などが充実しており、自分の試合、稽古はどうだろうと改めて考えさせられ、また稽古も十分にできておらず、自分の中で悔やむ気持ちも強くなり、できる限り稽古に励むようになりました。まだまだ課題は多

いですが、少しずつ自分のものにしていけるように稽古に励み、結果に繋げられるように努力していきたいと思われました。

福井県チームで今回も出場させていただきましたが、力不足で勝ち進めず不甲斐ない結果となってしまいました。しかし、今回も前回と同様メンバーで参加できたことをうれしく思います。

今後に向けてまた少しずつ稽古を重ね、精進していきたいと思えます。
玉村 友理

地域社会剣道指導者研修会

平成二十八年十月二十九日(土)

三十日(日)

於 福井県立武道館
今回の研修会は、中央派遣講師として小坂達明範士、水田重則範士をお招きして二日間開催されました。



小坂範士は九月に開催された東西対抗剣道大会に東軍大将として出場され、見事勝利を収められました。水田範士は学生時代に私と同じ恵土孝吉先生に教わっておられたということもあり、この研修会を心待ちにしていました。

小坂範士による講話では剣道理念、剣道修練の心構え、剣道指導の心構えの3つを具現化していくこと、剣道は事理一致の修行であるということとを述べられました。相手の気を殺し、四戒と呼ばれる驚懼疑惑を起させないようにすること、鎧を使つた攻防や手の内の作用などを分かり易く説明していただきました。「いつでも多くの稽古をする」「体を惜しまず、気を惜しまず、稽古せよ」「目標を立てて稽古する」「百錬自得」など稽古に向かうときの心構えをお示しにされました。時に冗談を交えながらお話しする小坂範士の話術

に多くの受講生が自然に引き込まれていくのを感じました。
水田範士には、足さばき、中心の取り方、仙骨を意識した打突など、基礎基本の大切さを再確

認させられました。水田範士自ら示範していただき、動きを目で見ても理解することもできました。とくに水田範士の足さばきはまさに「水鳥の如し」の言葉どおりでした。

二日目には、模擬審査が行われました。実際に私も受審者として臨みました。「着装の乱れから、体の軸がぶれている」「構えが上体でつくられている」など修正すべき点を具体的にお示しくくださり、今後の稽古の指針となりました。

この二日間で剣道の神髄と言うべきものを数多く学び、私たち受講者にとって密度の濃い研修会となりました。お忙しい中、私たちのために遠方からお越しくださった両範士の先生方、地元講師の堀江先生、山本先生には心より感謝申し上げます。

平成二十八年度

福井県実業団剣道大会

平成二十八年十一月六日(日)

於 福井県立武道館

「平成二十八年度福井県実業団剣道大会」は、十一月六日に県立武道館において開催されました。

団体戦は五人制と三人制、個人戦は男子三十歳未満の部、同三十歳以上四十五歳未満の部、同四十五歳以上の部、女子の部と年齢別の四部門

で行われました。計約一三〇人が参加し、熱戦を繰り広げました。試合結果

○団体Aブロック(五人制)

優勝 福井刑務所

第二位 野村證券(株)

第三位 (株)アイビックス

○団体Bブロック(三人制)

優勝 (株)平成ポンプクリート

第二位 野村證券(株)

第三位 (株)福井ライン

○個人戦 男子三十歳未満の部

優勝 中村 圭作 (福井刑務所)

第二位 辻内 勇介 (福井刑務所)

○個人戦 男子30歳以上45歳未満の部

優勝 元井 健伍

(株)平成ポンプクリート

第二位 伊部 一徳 (株)アイビックス

第三位 小堀 将年

○個人戦 男子四十五歳以上の部

優勝 前田 嘉一 (福井県庁)

第二位 田中 秀幸 (田中精機(有))

第三位 角野 弘

(東洋紡(株)敦賀事業所)

○個人戦 女子の部

優勝 林 諒子

(関西電力(株)原子力事業本部)

第二位 田中 更幸

(株)ナショナルメンテナンクス

第三位 文室那菜 (株)アイビックス

第64回全日本剣道選手権大会

平成二十八年十一月三日(木)

於 日本武道館

この度、平成二十八年十一月三日に日本武道館で開催された、第64回全日本剣道選手権大会に出場させて頂きました。本大会初出場で、福井県の代表ということでプレッシャーもありましたが、当日は緊張することなく、自分の剣道をすることができました。

結果は、埼玉県代表の足立選手に延長戦でメンを取られて一回戦敗退となりました。遠く福井県から応援に来て頂いた先生、先輩方の激励が力になり自分の実力以上の試合が出来ました。しかし、打たれた場面では、攻められて構えが崩れたところを打ち込まれ、精神面でまだまだ弱い部分があると痛感しました。本大会に臨むにあたり、来たる福井県体に向けた強化指定選手として、



佐藤先生、高橋先生をはじめとした全国の有名な先生方にご指導を仰げたことは大変貴重な経験でした。また、大阪府、兵庫県遠征で、当地の府県警察の特練員に稽古をつけて頂き、トップクラスの選手との試合を経験できました。

それらの経験を今回の結果に結びつけることができず、不甲斐ない気持ちがあります。平成三十年に開催されます「福井しあわせ元気国体」では、福井県の優勝に貢献できるよう、今後もより一層稽古に励んでいく所存です。

最後になりましたが、忙しい中稽古をつけて頂いた県警の先生方、特練員の先輩方、横断幕を掲げて頂いた武生西スポーツ少年団の先生方、この場をお借りして御礼申し上げます。(記 内藤 洋)

第39回全国スポーツ少年団剣道交流大会福井県予選会

平成二十八年十一月十三日(日)

於 若狭町三方体育館

大会結果

小学生団体予選の部

優勝 今立A

第二位 王子保A

第三位 敦賀

第三位 木田

小学生団体交流の部

優勝 織田

第二位 王子保B

第三位 五常館

第三位 養成館

中学生男子個人の部

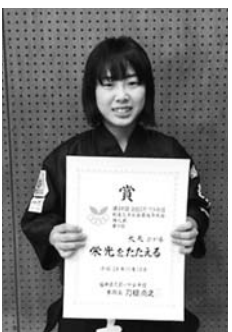
優勝 岡田佳志彦

第二位 寺前 寛一

中学生女子個人の部

優勝 大矢ひかる

第二位 南本 優那



福井県高等学校剣道新人大会

平成二十八年十一月十九日(土)

二十一日(月)

於 福井県立武道館

男子団体

- 優勝 敦賀高校
- 二位 敦賀気比高校
- 三位 武生高校
- 三位 啓新高校



女子団体

- 優勝 敦賀高校
- 二位 丸岡高校
- 三位 金津高校
- 三位 高志高校



男子個人

- 優勝 上村 周平 (啓新高校)
- 二位 刀根 航介 (敦賀高校)
- 三位 北島 正貴 (丸岡高校)
- 四位 橋本 恭佑 (丸岡高校)



女子個人

- 優勝 池田二千花 (敦賀高校)
- 二位 小辻 朋未 (敦賀高校)
- 三位 山川 咲愛 (敦賀高校)
- 四位 堤腰 琴菜 (敦賀高校)



第35回敦賀市長旗争奪 福井県少年剣道錬成敦賀大会

平成二十八年十一月二十三日(水)

於 敦賀市総合運動公園体育館

試合結果

- 優勝 福井養正館A (敦賀市)
- 準優勝 木田剣道スポーツ少年団A (福井市)
- 第三位 鯖江志士樹館道場A (鯖江市)
- 第三位 鯖江剣道スポーツ少年団A (鯖江市)
- 敢闘賞 王子保スポーツ少年団A (越前市)
- 敢闘賞 福井少年剣道クラブA (福井市)
- 敢闘賞 丸岡剣道スポーツ少年団A (坂井市)



優勝：福井養正館A



準優勝：木田剣道スポーツ少年団A



3位：鯖江志士樹館道場A



3位：鯖江剣道スポーツ少年団A

敢闘賞 国高剣道スポーツ少年団 (越前市)

特別賞 (10人抜き) 森 陽輝

(鯖江剣道スポーツ少年団A)

特別賞 (5人抜き) 萩原 徳紘

(福井東部少年剣道教室A)

特別賞 (5人抜き) 筧 翔太郎

(福井養正館A)

特別賞 (5人抜き) 笠嶋 洸瑠

(木田剣道スポーツ少年団A)

特別賞 (5人抜き) 藤井 真乘

(神山剣道スポーツ少年団)

特別賞 (5人抜き) 安達 一織

(木田剣道スポーツ少年団B)

特別賞 (5人抜き) 山本 天晴

(織田剣道スポーツ少年団A)

特別賞 (5人抜き) 松岡 巧

(武道学園B)

特別賞 (5人抜き) 永棹 泉希

(金津少年剣道教室A)

特別賞 (5人抜き) 伊藤 朋哉

(王子保スポーツ少年団A)

特別賞 (5人抜き) 森 陽輝

(鯖江剣道スポーツ少年団A)



特別賞 (10人抜き)

森 陽輝 (鯖江剣道スポーツ少年団A)

第36回少年剣道芦原大会

平成二十八年十二月四日(日)
 於 トリムパークかなづ体育館
 十二月四日 トリムパークかなづ
 体育館で三県(福井、石川、滋賀)
 43団体 60チームが参加して行な
 われました。

芦原剣道連盟 紺屋嶋三津男

団体の部

- 優勝 志士樹館道場A
- 準優勝 王子保スポーツ少年団剣道部A
- 第三位 木田剣道スポーツ少年団A
- 第三位 彦根城南剣道部



男子個人の部
 優勝 崎元 蓮太 (福井養正館)
 準優勝 宇野 竜明

第三位 (今立剣道スポーツ少年団)
 相馬 快成

第三位 (織田剣道スポーツ少年団)
 山本 峻仁

第三位 王子保スポーツ少年団剣道部

女子個人の部

優勝 青池玖瑠美 (彦根城南剣道部)

準優勝 野 美咲 (彦根城南剣道部)

第三位 龍田 遙夏

(今立剣道スポーツ少年団)

第三位 大石 咲色

(新風館愛宕坂道場)



第7回福井県少年剣道強化 錬成大会の開催について

平成二十八年十二月十一日(日)
 於 福井県立武道館
 平成二十八年十二月十一日(日)
 福井県立武道館において、第七回福
 井県少年剣道強化錬成大会が開催さ
 れた。

本大会は、福井県剣道連盟事業計
 画の一環として、県内の小学生を対
 象に、剣道を通して少年少女の技術
 の向上及び交流の輪を広げることを
 目的に実施している。

本大会の参加人員は、帯同審判、
 選手等を含め、約三百名(五十二チ
 ム)が参加した。

午前中は、主催者側の組合せ表に
 基づいた錬成会を行い、午後からは
 各教室の自主性を生かした申し合わ
 せ稽古を行った。

その後、指導者及び小学生全員参
 加による回り稽古を実施し、錬成会
 を終了した。

本年度は、小学生が自由な発想で
 交流の輪が広げられるように工夫を
 凝らした錬成会となった。

参加した少女剣士に感想を尋ねた
 ところ、「日ごろ、稽古したことの
 ない人達と試合するが出来ました。
 今日の稽古を生かして、より一層努
 力したいと思います。来年も参加し



たいです。」と、微笑みながら答え
 てくれたことが印象に残った。
 最後に、県内各地区から数多くの
 指導者及び少年少女の皆さんに集まっ
 ていただき、盛会のうちに終了する
 ことができました。これもひとえに、
 参加いただいた皆様方のお蔭と感謝
 している次第です。

これからも、より一層、魅力ある
 少年剣道強化錬成大会になるように
 努力したいと思います。

少年委員会

みんなの広場

剣道部・ クラブ紹介

敦賀市剣道スポーツ少年団

私たち敦賀市剣道スポーツ少年団は、以前、剣道だよりに載せていただいたとき（というより創立当時から）と同じく、「剣道は人間形成の道である」という理念を念頭に置き、「文武両道」と「勉強します・剣道します・よい行いをしますの三誓願」の実践に、団員一同、指導者、保護者とともに一生懸命励んでいます。現在、団員31名、指導者15名の体制で、



これも同じく、団として県下一・日本一を目指すと同じ時に、生涯剣道を続け、指導者としてこの道場に戻って来てくれるような子ども

たちの育成を目指しています。

そのような変わらぬ理念・教え・目標の下、最近、大きな変化が二つ見られました。一つ目は、平成二十七年日本剣道少年団研修会（体験・実践発表会）において、我が団員が最優秀賞Ⅱ文の日本一に輝いたことです。本人の努力はもちろん、指導者や保護者、多くの方々の支えや団の伝統があつてこそその快挙だと思います。二つ目は、私たちが指導者として戻って来たように、今度は私たちの教え子たちが、新たに指導者となつて道場に戻つて来てくれることです。私たちが、先輩指導者方の子の代だとすれば、私たちの教え子たちは、孫の代ということでもあり、本当に喜ばしいことだと思います。これからも変わらぬ理念・教え・目標の下、団員・指導者・保護者が一丸となり、「人を育てる・団を育てる」敦賀剣道を目指していく所存でございますので、これからもご指導、よろしくお願いいたします。

（記 団長 桃井泰人）

今庄中学校剣道部

豊かな自然に恵まれた今庄中学校は、全校生徒百人程の小さな学校ですが、伝統を重んじ、あいさつあふれる学校です。

剣道部は、「細心而剛胆」の部訓のもと、現在男子一三名、女子八名の計二十一名（三年生が七名）で毎日活気のある部活動を行っています。剣道部の目標は「応援されるチームになろう！」です。剣道が強いから応援されるのではなく、学校生活から正しいことを恥ずかしがらず、いろいろな方々から応援してもらえらるチームを目指して頑張っています。当たり前のことを当たり前のよう



できてこそ、剣道人としても強くなれると信じています。

試合になれば、全員が「つなぐ」ことを意識し、心を一につに目標に向かいます。おかげ様で、今年の夏、女子剣道部が十九年ぶりに全中出場を決め、秋季新人大会では優勝を勝ち取ることができました。

これからも、いつも温かく見守つて下さる保護者の皆様や、熱心に指導くださる先生方を始め、支えて下さる方々への感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきます。今後ともご指導のほど、よろしく願います。

藤島高校剣道部

藤島高校剣道部は、男子15名、女子8名で活動しています。1時間半と短い稽古時間ですが、稽古に工夫を凝らし、一人ひとりが目標を立て、一本一本を大切に、良い雰囲気の中、とても充実した活動をしています。高校から剣道を始めたい部員もいます。部員同士で教えあつたりしながら、初心者、経験者関係なく、全員が力を合わせて部活動を作り上げていきます。また、卒業された先輩方も時々武道場に来て稽古をつけて下さり、先輩・後輩の繋がりがとても強いです。県外の遠征にも積極的に参加し



ています。遠征は、仲間との稽古だけでは分からない事を学べ、たくさん刺激を受けられる貴重な機会になっています。練習後には、毎日必ず円陣を組み、皆に意識すべき点などについて伝え合っていて、モチベーションを高めています。

藤島高校のモットーである「文武不岐」を目標に、これからも勉強と日々の稽古を一生懸命頑張ってください。

福井刑務官剣道部

我々刑務官は、武道を通じて、職務執行上必要な体力、気力を養成するとともに、士気の高揚及び一体感の醸成を図る目的で、拜命後、柔道及び剣道のどちらかを選択しなければいけないため、当所剣道部では、段を有している者、段を有していない者が一致団結し、稽古に励んでいます。

稽古日時は、平日、勤務終了後、当所敷地内に併設されている錬成館で行われています。

我々剣道部は「自分から求める稽古」をモットーに掲げ、少ない稽古時間を最大限に生かすべく、有段無段関係なく、互いに指摘し合い、やらされる稽古ではなく、自分達で考え、求めて稽古することを心掛け、我々の目標である、全国矯正管区武道大会で優勝すべく、日々稽古に励んでいます。今年度は、後1歩のところまで全国大会には出場できませんでしたが、約30年振りに準優勝という結果は、自分から求める稽古の成果ではないかと感じています。

また、皆様に、気兼ねなく足を運んで頂き、御指導をして頂ければと考えておりますので、お気軽にお越し頂けたら幸いです。



剣道 称号段位合格者

剣道段位審査会

平成二十八年十一月二十七日(日)

於 福井県立武道館

「初段」 五十二名

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------------|---------------|----------------|---------------|---------------|---------------|
| 大橋 悠生 (中央中一年) | 前田 侑輝 (丸岡中一年) | 萩原 祐輔 (大東中一年) | 中根 辰哉 (坂井中一年) | 水野 颯太郎 (南越中一年) | 山本 愁斗 (中央中一年) | 川崎 聖涼 (光陽中一年) | 坂元 蒼輝 (武生中一年) | 秦 昌輝 (永平寺中一年) | 青木 智矢 (中央中一年) | 吉田 瑠惟 (武生中一年) | 塚本 朗人 (武生中一年) | 高木 拓夢 (武生中一年) | 辰川 凌哉 (高志中一年) | 高桑 駿人 (丸岡中二年) | 浅川 成也 (丸岡南中二年) | 高橋 成也 (丸岡南中二年) | 塚本 颯太 (中央中二年) | 平田 翔瑛 (丸岡南中二年) | 甲斐 楓馬 (菅原中二年) | 南田 晟太郎 (丸岡中二年) | 南田 泰輔 (菅原中二年) | 大田 浩希 (成和中二年) | 内田 湧貴 (森田中二年) |
|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------------|---------------|----------------|---------------|---------------|---------------|

飯島大稀	佐竹勇飛	〔貳段〕 三十四名	吉田知奈美	藤貫晴香	村中葵衣	山口音緒	小倉夢実	宇野碧	吉江彩	前田侑香	谷口果子	宇野光咲	田畑美奈	小林咲季	下谷桐子	菅谷歩未	安野有香	上村百代	石山楓	友田茂	大関真人	家長篤志	廣瀬大真	久末寛矩	清水勇希	早川大喜	長谷川真志	高倉陸	小寺一矢	奥村悠生
			(武生六中二年)	(武生三中二年)	(北陸高一年)	(福井高一年)	(池田中三年)	(丸岡中二年)	(足羽一中二年)	(丸岡中二年)	(丸岡中二年)	(大東中二年)	(松岡中一年)	(菅原中一年)	(永平寺中一年)	(丸岡中一年)	(中央中一年)	(大東中一年)	(小浜二中一年)	(中央中一年)	(会社員)	(北陸高三年)	(啓新高二年)	(丹生高一年)	(中央中三年)	(大東中二年)	(春江中二年)	(丸岡南中二年)	(大東中二年)	(春江中二年)

加藤遥菜	西森摘	前田利奈	萩原圭都	平松咲樹	長谷れもん	新河戸美早	高田紗愛	井村歩加	竹間ころ	小谷咲恵	田中康平	嶋中晴哉	清水裕斗	渡邊誠也	奥村仁一郎	小津恭輔	井関理翔	中村龍之介	山本宗希	駒正晴	東勇人	若杉朋哉	小角愛寿	山崎伶馬	古河諒真	石水征也	高橋征也	武内聡希	飯田晃己	山本馨文	三原碧月
(藤島高二年)	(美方高二年)	(藤島高一年)	(北陸高一年)	(中央中三年)	(三方中三年)	(丸岡南中三年)	(丸岡南中三年)	(武生六中二年)	(鯖江中二年)	(足羽一中二年)	(教員)	(科技高三年)	(美方高二年)	(丹生高二年)	(美方高二年)	(武生工高一年)	(羽水高一年)	(中央中三年)	(清水中三年)	(中央中二年)	(大東中二年)	(大東中二年)	(三国中二年)	(金津中二年)	(中央中二年)	(三国中二年)	(足羽一中二年)	(中央中二年)	(藤島中二年)	(三国中二年)	(朝日中二年)

西嶋紀	吉田淳也	伊藤藍子	〔伍段〕 三名	村井佑輔	大森豪	岡倉達也	梁村斗馬	〔肆段〕 四名	田中あかね	永智子	常盤真依子	石水隆心	新道隆行	嶋田和仁	矢部将生	畑手雅守	小塩泰世	宮川瑛	小寺正悟	道上隼豊	前田凱斗	柄川宗次郎	川崎叶也	〔参段〕 十五名
(刑務官)	(会社員)	(教員)		(会社員)	(自営業)	(警察官)	(福井工大3年)		(会社員)	(会社員)	(若狭高三年)	(丸岡高二年)	(会社員)	(会社員)	(公務員)	(大学四年)	(福井工大二年)	(警察官)	(福井高三年)	(福井高専二年)	(啓新高二年)	(福井高専二年)	(藤島高一年)	

称号・六段以上合格者

平成二十八年十一月二十三日(祝)

於 東京会場

剣道錬士 河原 德行(三方)

平成二十八年十一月十三日(日)

於 愛知会場

剣道六段 佐藤 秀樹(敦賀)

剣道六段 松井 香里(敦賀)

剣道六段 佐藤 憲造(坂井)

訂正

剣道だより92号で「第54回福井県中学校夏季総合競技大会」の記事において「女子団体 第3位」が「丸岡中学校」となっていました。深くお詫びいたします。



第38回日本剣道少年団研修会(体験・実践発表会)
小学生の部 最優秀賞



『日々鍛錬く剣道を通じて学んだこと』

福井県敦賀市剣道スポーツ少年団
敦賀市立粟野南小学校六年 中本 慧 翔(なかもと けいと)

「やったあ!」

心の中で歓喜し、僕は再び力を込めて竹刀を握り直した。応援してくれているチームメイト、先生方、育てる会の皆さん、そして父と母。みんなの泣き笑いの顔や、心身ともに充実したあの時の達成感を僕は絶対に忘れない。

五月に行われた道場連盟全国大会予選の三回戦。チームが勝利すると全国大会出場が決まり憧れの日本武道館に行くことができる大事な一戦だ。二対一、本数は五対三。勝負の行方が決まらない中、勝負は大将戦に持ち込まれた。六年になって大将を任せられることが多くなった僕は、ひしひしと伝わる大将の重圧と物凄い緊張感に耐えることで必死だった。この勝負に負けたら全国大会に行けないかもしれない。今まで、共に頑張ってきたチームメイトに申し訳ない、と思えば思うほど体が強張ってきた。

「始め!」

腹の底から気合を入れて声を出した。ところが、相手の大将はなかなかのものだ。気合は十二分、グイグイと押されてくる。前に前に、とチームメイトの声が聞こえた。前に出て勝負をしたいと思いつつ、相手の

ペースにどんどん飲まれていくような気がした。僕は、今までの試合で一番長い二日間だと感じた。緊張感もう無かった。全身全霊をかけて竹刀を振っていた。

無我夢中だったが、僕は

“自分の剣道”

“自分の形”

を自然体で発揮できるように、日々の稽古で意識し、実践してきた。このまま負けてしまえば、頭で考え過ぎて体が動いていない証拠であり、勝つことができれば、それをバネにして、なお一層自分を磨くことができるだろう。自分の剣道ができるまで、絶対に諦めない。誓って、決して楽ではない稽古を積み重ね、この身体に叩き込んできた。

「絶対に諦めない。絶対に!」

相手の大将の気迫を遥かに凌ぐくらい二倍も三倍も大きな声を出した。

「面あり!」

チームメイトや先生の歓声が聞こえた。試合の後の面の中は汗か涙か、区別がつかない状態だったが、きつと、汗は体の頑張り、涙は心の頑張りだったのかなと思う。

剣豪・宮本武蔵の「五輪書」に

「千日の稽古をもって鍛とし、万日の稽古をもって錬とす」

という言葉がある。

「鍛」は基礎定着までに三年

「錬」は完成形までに三十年

かかるということだ。僕の剣道の形はまだまだ途上にある。試合に勝てない日々もいずれやってくるかもしれない。剣道以外のことで当てるはまると思う。しかし、ここで諦めていては鍛錬にならない。鍛錬とは「続ける」ことであり、ここぞという時に、歯を食いしばって耐えることであり、そして何よりも己に負けないことである。僕は、剣道を通じて、これらの事を日々実践し、一つの道を完成させることは、剣士として、人として、目標とすべきことだと考えている。目標を達成する中に剣道があり、そこには高い目標に向かって日々鍛錬する自分がある。そのような人間になりたいと思う。全国大会に向けて稽古に励んだ日々、次のステップに向けて心新たに頑張った日々。僕の鍛錬はこんな薄っぺらい内容だが、これからも剣道を続け、剣士として、人としての厚みをさらに増やせるよう、日々頑張っていきたい。

【福井県剣道連盟事務局に質問などをお寄せください】

宛先 福井県剣道連盟 〒910-0015 福井市二の宮2丁目24-18 サンライズ二の宮1-B
メールアドレス fkikendo@herb.ocn.ne.jp TEL・FAX(0776)28-6616